

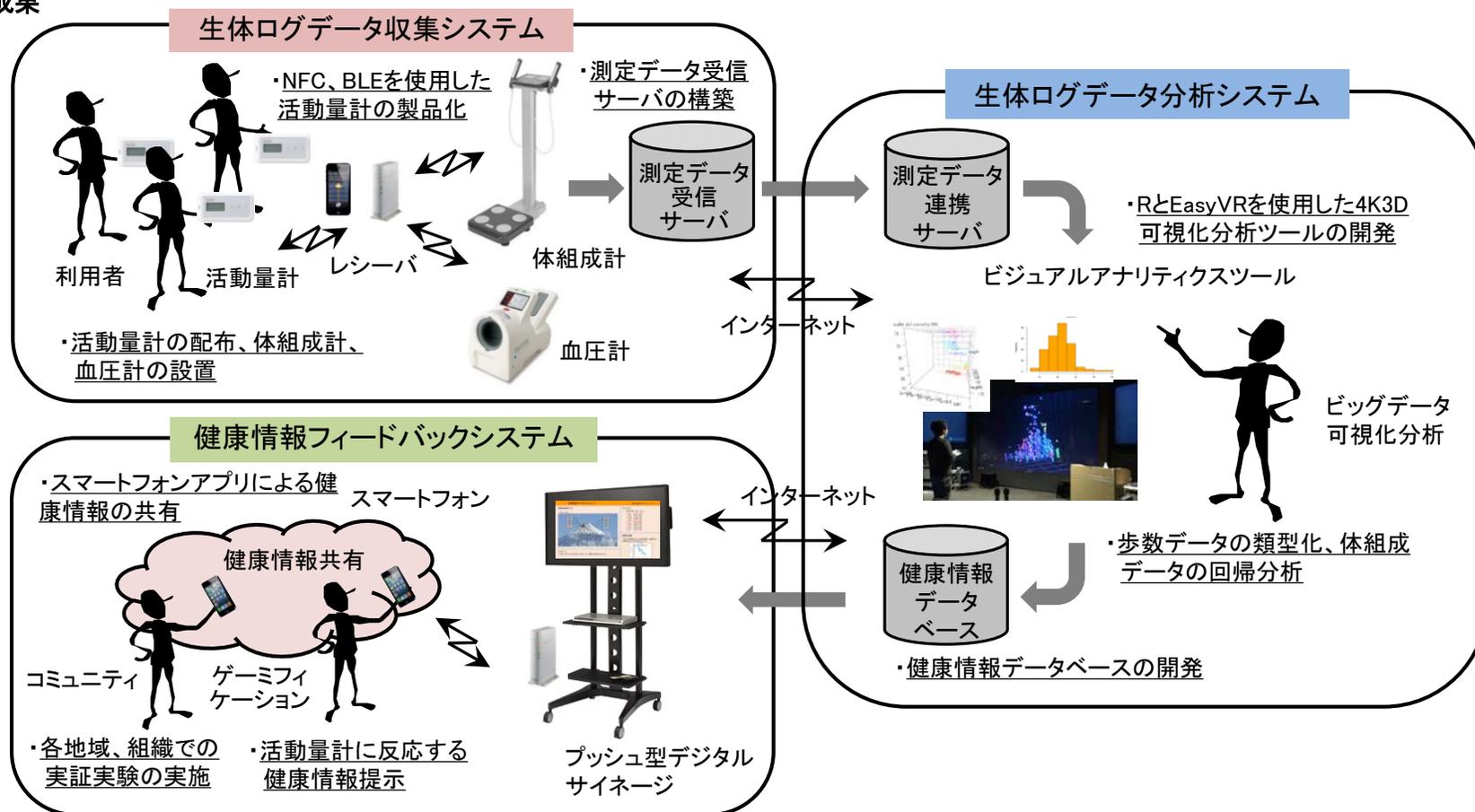
1. 研究課題・受託者・研究開発期間・研究開発予算

- ◆課題名 : ソーシャル・ビッグデータ利活用・基盤技術の研究開発
- ◆個別課題名 : 課題A ソーシャル・ビッグデータ利活用アプリケーションの研究開発
- ◆副題 : ヘルスリテラシー向上のための生体ログデータ分析に基づく健康情報フィードバック
- ◆実施機関 : 学校法人慶應義塾、株式会社タニタヘルスリンク
- ◆研究開発期間 : 平成26年度から平成29年度まで(4年間)
- ◆研究開発予算 : 総額 80百万円(平成29年度20百万円)

2. 研究開発の目標

本研究では、活動量を始めとする複数の生体ログデータを自動的に収集するシステム、蓄積された生体ログデータを可視化分析するシステム、分析結果をもとに健康情報を利用者にフィードバックするシステムの開発を行うことで、国民のヘルスリテラシーの向上を図ることを目標としている。

3. 研究開発の成果



4. 特許出願、論文発表等、及びトピックス

国内出願	外国出願	研究論文	その他研究発表	プレスリリース 報道	展示会	標準化提案
0 (0)	0 (0)	0 (0)	64 (13)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

※成果数は累計件数、()内は当該年度の件数です。

(1) 各地域での実証実験

実証実験として慶應義塾大学内だけではなく、長岡市、和歌山県庁、総務省統計局、慶應志木高、武雄市小学校等の協力を得ることができ、各地域、各組織に対して活動量計の配布、体組成計・血圧計の設置を行うことで、いろいろな地域における多世代にわたる実験協力者を対象とした実証実験を行った。

(2) 学会におけるセッション企画

第6回横幹連合コンファレンス(2015)、第7回横幹連合コンファレンス(2016)、第8回横幹連合コンファレンス(2017)を始め、日本行動計量学会第44回大会(2016)、また国際会議 The 2017 Conference of the International Federation of Classification Societies(2017)において、本研究プロジェクトとしてオーガナイズドセッションを企画し、生体ログデータ収集システムの開発、生体ログデータ分析システムの開発、健康情報フィードバックシステムの開発についての研究成果の発表を行った。また、日本バーチャルリアリティ学会誌(2015)において「ライフログと健康」の特集を組み、本研究プロジェクトの紹介を行った。学会等におけるこれらの企画により、本研究プロジェクトを広く紹介し、成果発表を行ういい機会となった。

5. 研究開発成果の展開・普及等に向けた計画・展望

これまでの研究開発により、生体ログデータ収集システム、生体ログデータ分析システム、健康情報フィードバックシステムの各サブシステムの基本機能の開発、およびデータベースを介した各サブシステム間の連携の基本フレームワークの構築を実現することができた。また、慶應義塾大学内だけではなく、長岡市、和歌山県、総務省統計局等のさまざまな地域や組織の協力を得ることが出来、活動量計の配布、体組成計や血圧計の設置を行い、実証実験を実施してきた。また、実証実験を通して収集したログデータの分析から、対象者の属性による歩行パタンの分類、行動様式と健康状態との関係性に関する幾つかの知見や対象者への情報フィードバックによる健康意識向上の効果を確認することができた。今後は、本研究成果のフレームワークのパッケージとしての普及展開、および研究成果の公開による国民のヘルスリテラシー向上に役立たせていくことを目指す。